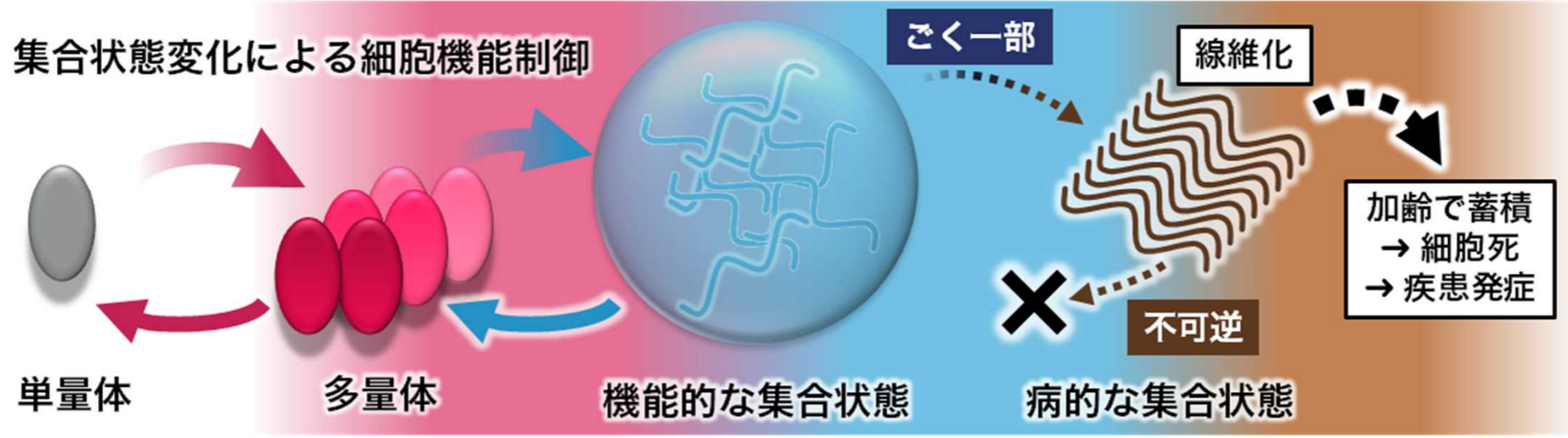
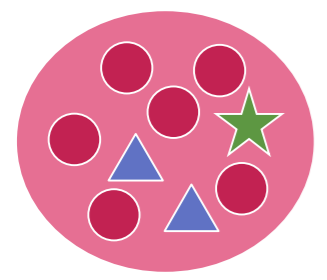


疾患関連変異タンパク質状態分布解析に向けた電気泳動像の革新的定量システム開発

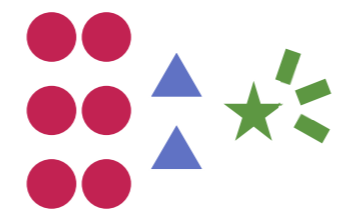
少量かつ不可逆的な状態変化による神経変性疾患発症モデル



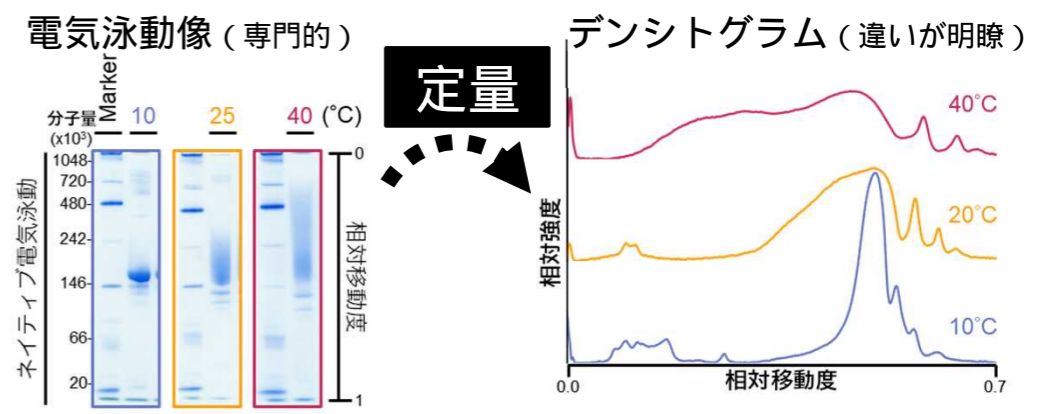
【背景】加齢性疾患等では、ごく一部の不可逆的な状態変化の蓄積が疾患発症に繋がる。



(従来法)
平均値観測
平均すると丸(正常)



(新手法)
状態分布観測
大部分が丸(正常)
一部が星(異常)



【課題】従来法の多くは平均値観測で、ごく一部の状態変化を定量するための分布観測は、困難で、かつハイコストな装置を要した。

【解決】改良型電気泳動装置製品化 × データ定量革新 でコスト1/100の状態分布観測を目指す。

【実証】神経変性疾患関連変異や直接的状態操作による状態分布変化と分子の線維化、および細胞の生存率を相関解析し、状態分布観測という生命科学の新しい物差しを提案する。